

8050問題 ネットワーク発足

産学官民連携 相談や勉強会



総会で「孤立している人を一人でも救えたら」と話した副代表の谷川勝彦さん＝鹿児島市山下町

長期間ひきこもり状態にある中高年の子と高齢の親が社会で孤立する「8050問題」の解消をめざし、県内の産学官民が連携する支援組織「かごしま8050ネットワーク」が発足した。鹿屋市に事務局を置き、電話や訪問による相談などに応じる。

鹿児島市で2月22日に設立総会があり、就労支援事業者や医療、教育関係者、自治体職員ら約40人が出席した。会則などを確認し、同市のNPO法人理事長の谷川勝彦さん(43)を副代表に選んだ。代表は打診中で、当面は谷川さんが代表職を兼ねる。

同ネットワークによると、県内の40歳以上のひきこもり状態の人は8千人以上。ひきこもりが長期化し、背景や要因も多様化してい

るため、行政の支援体制だけでは不十分という。相談会や勉強会も開き、悩みや困りごとを抱える人の早期発見や、公的制度や民間サービスとの紹介などに取り組む。支援する側の育成や支援にも力を入れるという。

副代表の谷川さんは「困っている人、孤立している人が、よりよい人生を歩むために協力させていきたい」とあいさつ。事務局長に就いた大倉一真さん(44)＝鹿屋市＝は「積極的に地域に足を運び、常に互いの顔が見えるネットワークにしたい」と語った。

総会に出席した50代の男性は、20代の子がひきこもり状態といい、「解決への糸口がなかなか見つからない。これから何年かかるのか、先が見えないのがつら

い」と吐露。「いろいろな情報や知識を得て共有したい」とネットワークに期待

した。
相談や問い合わせは、事務局「パーソナルサービス支援機構」(0994・37・5639)へ。メール info@kanoya-ps.comでも応じる。
(ライター・知覧哲郎)